フィリピンにおける米国の回帰と干渉に関するレポート

新民族主義者同盟（ＢＡＹＡＮ）

このかんＢＡＹＡＮとその傘下団体は、米国のフィリピンを含むアジア地域における干渉と再調整に反対するキャンペーンに従事してきた。このキャンペーンはフィリピンで 11 年目を迎える米軍の絶え間なく続けられている駐留に焦点を当てている。

フィリピンの米軍駐留は、相互防衛条約、訪問米軍の地位協定(VFA)、相互補給支援協定(MLSA)などの一方的な協定によって可能となっている。今やフィリピンは米国との間に基地条約はないが、代わりにこれらの 3 協定をもって米国は実質的に基地を配置する条件を得ており、実際にフィリピンに基地があるのである。米国は今やよりたくさんの軍事演習を行い、より頻繁にかつて米軍基地であった場所および、おそらく新たに米国が管理するようになった地上配備型の電波探知施設などにアクセスするための方法を探っており、そうなれば事態はより悪くなるだろう。

この数か年の間、BAYAN とその傘下団体は、フィリピン憲法そしてフィリピンの主権を侵害しているとして、VFA を取りやめるよう声をあげてきた。VFA を廃棄するためのこのキャンペーンは、米国がアジア地域における再調整あるいは回帰を宣言した後は、より喫緊の課題となっている。

スービックの有毒廃棄物（*図 1 参照）

2012 年 10 月、かつて米海軍基地があったザンバレス州のスービックの地方自治体が、民間軍事請負業者グレン・ディフェンス・マリン・フィリピンがフィリピンの領海に有毒廃棄物や有毒化合物を廃棄したことを報告した。この地方自治体の発見は、後にフィリピン上院の認めるところとなった。フィリピン上院レポートによれば、米国の一隻の米国の船から、集められた 400 万リットルの汚水がフィリピンの領海に捨てられた。

米国の潜水艦や軍艦がかつての米軍基地に入港するようになり、スービックは実質的に米海軍の前哨基地化している。軍艦の入港が増えることは、廃棄物が増えることを

意味する。米国最大の軍用船製造会社であるハンティントン・インガルス社は、スービックの米国の軍艦を修繕、補給する用地を経営するために韓国のハンジン商会と提携してきた。これは個人企業を装った、実質的な米海軍基地として機能してきた。数々の報告によれば、2007 年から 2012 年にかけて、357 隻の米軍艦がフィリピンを訪れてきたという。

有毒物質の持ち込みの法的責任は、民間契約者だけにあるのではない。民間軍事請負業者を利用することは、米政府が責任を逃れるための方法にすぎない。米政府はフィリピンに米軍基地があった時から、有毒廃棄物をきれいにする事に失敗してきた。今や、VFA と MLSA のもとで、米国は再び我々フィリピン人の港を使い、危険な毒物を持ちこみ、これらの行動の法的責任を逃れている。フィリピン政府は VFA のために、領海内に危険な物質を持ちこんでいる米国の軍艦を検査することが出来ない。

トゥバタハ珊瑚礁座礁事件（*図２参照）

2013 年 1 月 17 日、米掃海挺 USS ガーディアンが環境保護区であるトゥバタハ珊瑚礁で座礁した。この海域はユネスコの世界遺産に登録されており、フィリピン法に基づき、立ち入りの前には許可が必要である。この掃海艇は、地方自治体の警告を完全に無視した。地元の公園警備隊が立ち往生した船に近付こうとすると、米軍は戦闘態勢に入った。事故発生から 1 カ月以上たった現在に至るまで、米国からはなぜ船が保護区に入ったのかについて十分な説明はない。船の船員による最初の説明によると、ナビゲーションのミスや地図の間違いであるということだが、こんな説明は到底信じられない。

米国はこの事件を「遺憾である」と言っているが、これがフィリピン人にどれほどの実際の損害を与えているかについては言及していない。フィリピン政府は米国に損害賠償を要求しているが、アキノ政権は VFA 破棄の声が上がっているのにもかかわらず、維持を約束している。

珊瑚礁がダメージから回復するのには数十年を要するだろう。試算によれば珊瑚礁の 4000 平方キロメートルがダメージを受けた。被害の全体は、船を取り除かないと分からない。

このトゥバタハ珊瑚礁事件は米軍によって犯されてきた数々の環境犯罪(クラークとスービックの米軍基地による有毒廃棄物など)の最新のケースである。

トゥバタハ珊瑚礁事件の核心は、米軍が、部隊数の制限なく、無期限に、あらゆる活動において、フィリピンの港、空港、領海に際限なくアクセスすることを許可してい

るVFAである。USSガーディアンがこの地域になぜ入ったのかをフィリピン政府が知らないということが、VFAの問題を明らかにしている。USSガーディアンの乗組員がフィリピンの公園警備隊が船に近付き、珊瑚礁の損傷を調査することを拒否したが、これはVFAによって可能となったのだ。

BAYAN はトゥバタハ珊瑚礁事件の後、米軍に反対する数々の行動を行ってきた。2013年2月4日の比米戦争開戦の日、そして2月18日の事件発生から一カ月後のアクションなどである。

米国は船をいくつかの部位に切り分けて珊瑚礁から取り除く方針であるが、数々の環境団体が、それにより珊瑚礁は一層の損傷を受けると主張している。

軍事演習と戦力投射[1]

VFAに基づき、軍事演習が続けられてきた。2012年4月、BAYANと参加団体は毎年行われえる米比合同軍事演習バリカタンに反対するさまざまな行動を行った。マニラからパンパンガ州クラーク航空基地へのキャラバンを実施した。米軍の演習はトゥバタハ珊瑚礁事件の後も続いている。この2013年1月には、パラワン州において日本から米軍のオスプレイを持ちこんでの軍事演習を行った。

BAYANはこの2月7日に米国、日本、オーストラリアが参加したグアムでの合同軍事演習コープノースもまた糾弾する。BAYANはオーストラリアとフィリピンの間のVFAについても米国の軍事的な思惑を前進させるものであるために同様に反対する。BAYANは米国の指示によってなされたフィリピンと日本の軍事協力を強める意図表明文書を暴露し、これに反対してきた。

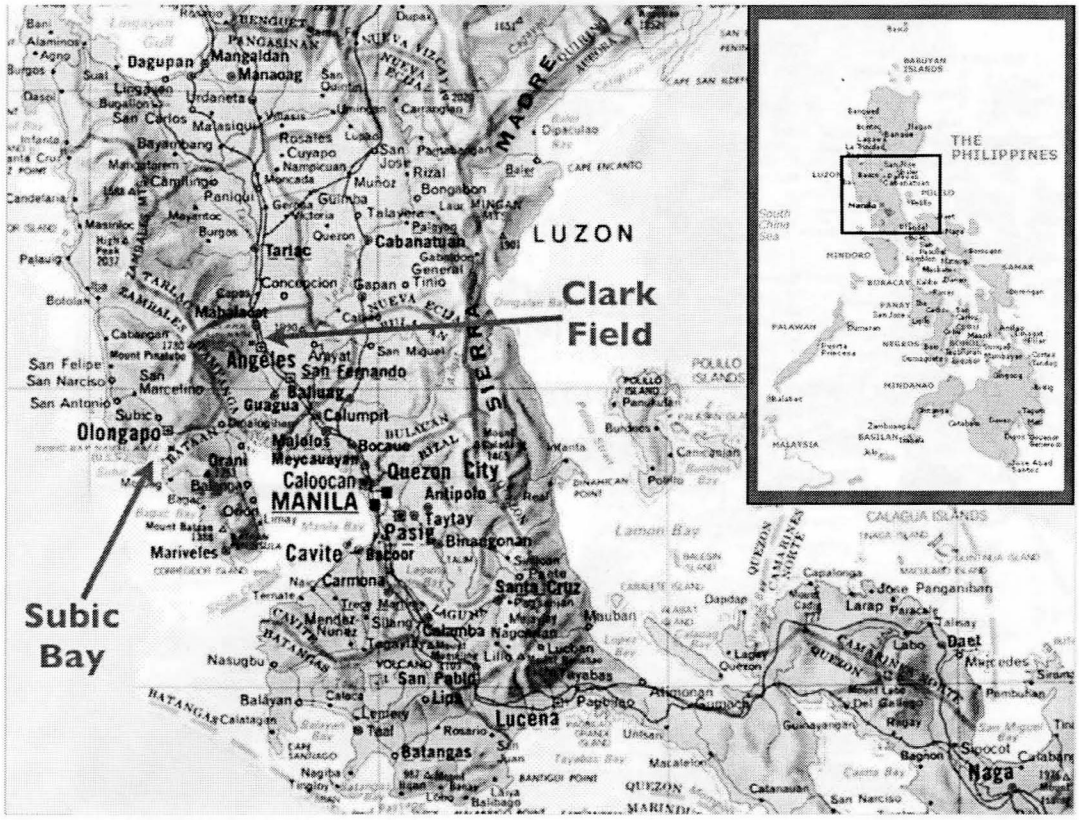
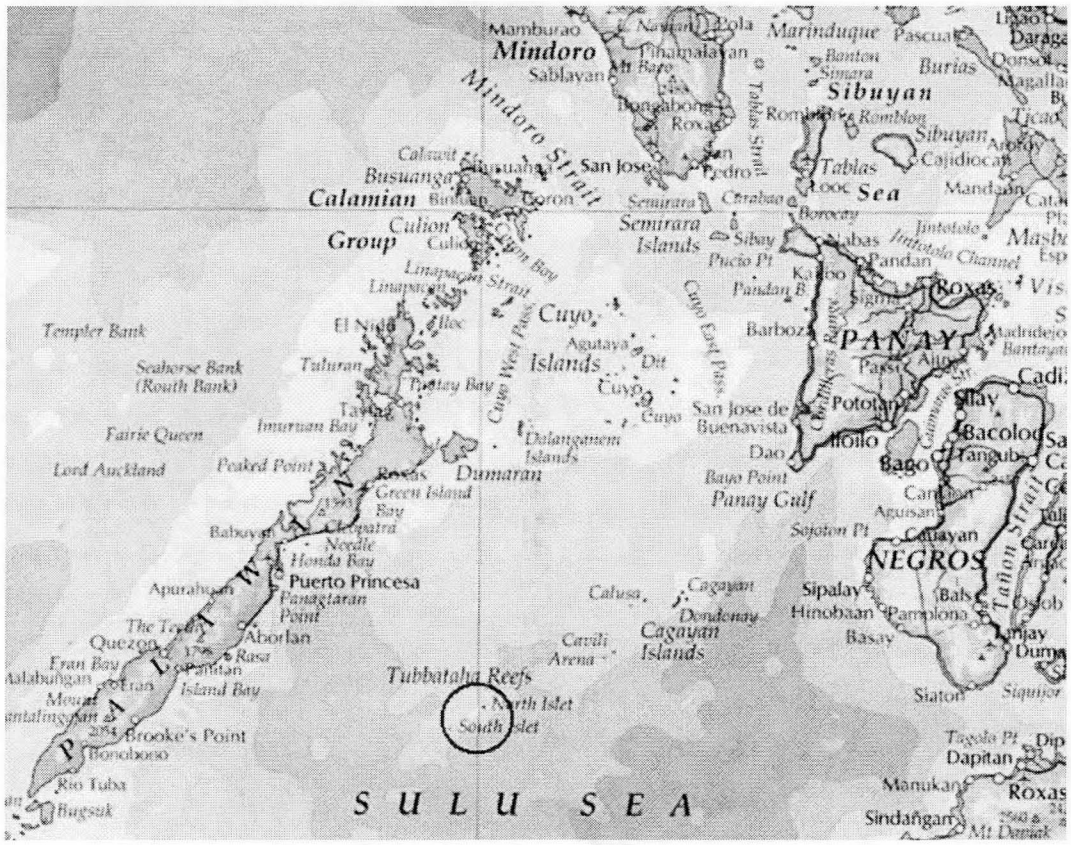
600人の米軍特殊部隊がフィリピンに非公開の活動のために留まっている。米軍の作戦隊員が、フィリピンにおいてテロリスト容疑者をターゲットとした実際の戦闘活動に無人航空機を使用したことを認めたとニューヨークタイムス紙が報じた。

BAYAN は現在、他の反帝国主義団体および「反米軍基地キャンペーン」(Ban the Base Campaign)[2]と共に2013年7月の反基地会議の準備をしている。

---

[1] 訳注：軍事力を準備、輸送、展開して軍事作戦を遂行すること。
[2] 訳注：国際民衆闘争同盟（ILPS）の参加団体等によってつくられた国際的な反基地ネットワーク

* 図１　スービックの位置



* 図２　トゥバタハ珊瑚礁の位置